

昭和47年度兵庫県生物学会夏期研修会報告

期日 昭和47年8月17、18、19日（2泊3日）

会場 兵庫県三原郡南淡町沼島

南淡町立沼島小学校

宿所 沼島神宮寺

8月17日(木)

開会 三浦会長挨拶 講師紹介

講演1 沼島の自然について 槌賀 正夫先生

沼島は兵庫県の最南端に位置し、淡路島の土生から約4km、周囲約10km、面積約3km²、地質は全島が長瀬変成帯に属する結晶片岩でできており、植物はタブ、キキョウラン、オガタマノキ、タケフジ（サカキカズラ）など暖地性のものがあり、沼島八幡宮の社叢は原始林に近い状態で残されているが、他はほとんどがクロマツを主とする二次林となっている。

動物のうち、カニ類は約60種が標本として保存されている。岩石の主なるものは石墨絹雲母結晶片岩、緑泥片岩、点紋緑泥片岩、紅簾絹雲母石英片岩などである。

講演2 沼島の文化について 山本 修一先生

神話の「おのころじま」は通常は淡路島ということになっているが、沼島が本当の「おのころじま」であるという説が強い。沼島は古代から海人、海賊の拠点となっていた。中世になっても沼島水軍としての存在が歴史に残っているが、一方漁人として正業を営むようにもなった。現在は漁業の根拠地および淡路の観光地の一つとして平和な公害のない土地となっているが、人口は減少の一途をたどり、明治中期に比べて約半数に減っており、小中学校教員の確保に苦慮している実情である。

皆さんの宿所になっている沼島神宮寺は今から約1100年前の元慶4年（881）に開基されたもので、歴代領主の祈願所となり、その後、天正8年（1580）に再建され、その時の棟札が現在も神宮寺に保存されている。

見学 沼島八幡宮社叢の植物

沼島小学校の飯田先生の案内で室井先生指導のもとに沼島八幡宮社叢の植物観察を行なった。

イチヨウ（♂）、タブ、スダジイ、クロガネモチ、ホルトノキなどの大木がうっそうと生い茂り、その下層にはクスノキ、ヤブニッケイ、モチノキ、カクレミノ、ネズミモチ、サカキ、ツバキ、トベラなどが、社殿の周辺にはムク、イヌビワ、ホンバイヌビワ、ハゼ、クサギなどが、低木層にはマンリョウ、イズセンリョウ、ツルコウジ、よく成長したジュズネノキなどが見られ、草本類はヤマアイ、ヤブミョウガ、ミズヒキ、ノコンギク、メジロホウズキ、アオイゴケが、つる植物はテイカカズラ、

フウトウカズラ、キツタ、フジ、ビナンカズラ、ヤイトノサなどがあり、シダ植物にはフモトカグマが多く、オオイトチシダやベニシダ、オニヤブソテツなども見られた。林中の樹木の幹にはセトウチマイマイと大形のヤマナメクジが見られた。

社叢の南側は段段畑跡があり、付近にはダンチクに混ってカラタチヤクロチク（ニタグロチク）が残存しており、以前に住居のあったことがうかがえる。

夜は「日本のカタツムリの分布と生態」について東先生のご研究の一端をみごとなスライドにより解説をいただいた。

8月18日(金)

磯採集、海浜植物、陸生植物の観察と採集

飯田先生の案内で、室井先生、東先生指導のもとにそれぞれ装束をととのえて大水の浦方面へ出発した。

民家近くの石垣にはオニヤブソテツ、ツルナ、ハスノハカズラ、キケマンが見られ、道端にはセンダングサ、アメリカセンダングサ、シロザ、イヌビユ、アメリカアリタソウなどが生え茂り、山地へ入るとクロマツが優占しており、一部アイグロマツが混り、ヤマモモ、コナラが点在し、山の斜面にはオオバヤシャブシやヒメヤシャブシが砂防用として植林されており、低木層にはシャシャンボ、ヒサカキ、ナツハゼなどが見られ、林床にはコシダが多く、ハシゴシダやホラシノブが比較的多く、コモチシダも散見された。大水の浦と古水が浜の間の山地北側斜面にはウラジロの大群落が発達している。海浜にはワダン、ハマボス、ハマナデシコ、ハマゴウ、コウボウムギ、コウボウシバ、ギョウギシバ、ケカモノハシ、ハマエンドウ、イヨカズラ、ハマユウ（稀）が見られた。

古水が浜で採集された貝殻

アマガイ、アヤマダカラ、イシダタミ、イソニナ、イボニシ、ウノアシ、カモンダカラ、キクスズメ、クサイロアオガイ、クリフレイシ、クルマガイ、クロアワビ、クロズケガイ、コシダカガンガラ、シマオトメフデ、シラタマツバキ、シラホシタテガミシャジク、シワホラダマシ、タマキビ、チグサガイ、チャイロキヌタ、チリボタン、トマヤガイ、ナワメグルマ、ハナマルユキ、パテイラ、ヒメアサリ、フトコロガイ、ベッコウガサ、ホラダマシ、マツバガイ、ムギガイ、メダカラ、ヨメガガサなど。

古水が浜から上立神に向けて山道伝いに採集観察を行なった。路傍にはキイチゴ、ツワブキが比較的多く、サジガンクビソウ、センニンソウ、キクバヒヨドリ、ミズ

昭和47年度兵庫県生物学会夏期研修会参加者名簿

(1972年8月17日～8月19日 於南淡町沼島)

スギ、ダンドボロギク、シシウド、クズ、ガガイモ、カモメズル、ホドイモ、クチナシ、ヌスビトハギ、コウヤボウキ、アケビなどが散見された。日当りのよい道端にダンチュクがまるで竹やぶのように群生している風景はいかにも暖国らしい情緒がただよっていた。

狭い範囲に局地的に生育しているものとしてはキキョウラン、サカキカズラ、オオイタビ、シマカンギク、ハマナタマメなどがある。

島の南東部の海中に突出している上立神と呼ばれる巨岩を眺めながら昼食をとり、帰途は沼島中学校の前を通り、室町時代以来の名庭園と言われる伊藤氏邸の庭を見せていただいた。足利家代々の作庭の妙がうかがえるといわれる。

午後の研修として沼島小学校の理科室を借りてウニの発生実験とプランクトンの観察を行なった。

夜の研修としては先ず、室井先生からヤマモモの木の雌雄の鑑別法、イブキの向日性(-)、タケ、ササ、パンプーの違い、モウソウの特徴、イチョウの実は果実というべきか種子というべきか、コンニャクイモは根か茎か、アラメとコンニャクの関係、ケイトウ談議などの講議をきく。

続いて南光先生から「レンズを通した自然観察」というテーマで、エノキの出芽から、ヤドリギ、キレンジャクとヒレンジャク、オオムラサキとゴマダラチョウの生態、沼島を構成している変成岩の至近距離からの実態など、すばらしく鮮明なカラー写真を見せてもらい全員すっかり魅せられてしまった。

8月19日(土)

朝食後、神宮寺の住職さんから寺宝ともいうべき仏画の掛軸や古い経文、出土した土器などを見せていただき、寺の歴史などについて説明してもらった。

午前8時30分に便宜上開会式を先に済ませてから、チャーター船で沼島の島めぐりをした。全島が結晶片岩で成り立っていることを一層はっきりと観察することができた。

午前10時40分、同11時の船便でなごりをおしみなながら沼島をあとにした。

おわりに

生物学会の淡路支部の会員の方々には昨年の総会に引き続き、今回の夏期研修会には早くからいろいろと準備お世話をくださりまして、まことに有難うございました。また宿をさせていただいた神宮寺の住職さんをはじめお世話をくださった皆さんに厚くお礼を申し上げます。

(近藤記)

氏名	所属
坂東 義三	多可郡八千代中学校
室井 紳	県立兵庫高校
近藤 昭一郎	"
内海 功一	千種町立千種中学校
東 敏男	神戸市立葦合高校
渋野 龍二	"
大村 義憲	県立明石北高校
内藤 茂樹	高砂市立高砂中学校
橋本 光政	姫路東高校
丹羽 啓裕	県立津名高校
山根 国男	農業試験場
洋徳 隆	琴丘高校
藤本 俊彦	神戸市立太田中学校
三住 昭夫	県立州本実業高校
杉田 靖興	県立赤穂高校
笹倉 壽巳	西脇中学校
橋本 宗一	明石市
西村 義孝	県立西脇北高校
春名利雄	神戸市立東舞子小学校
当津 隆	県立夢野台高校
谷口 雷太郎	加古川中学校
尾崎 好靖	"
石上 禎一	神戸市立山手小学校
三浦 佳文	県立加古川西高校
松本 恵子	県立青雲高校
山本 修一	灘中学校
槌賀 正夫	阿万小学校
南光 重毅	津名中学校
東 正雄	甲陽学院高校
梶田 耕造	県立洲本高校
石上 晃	"
喜田 二郎	柳学園高校
酒井 清隆	"
飯田 脩	沼島小学校
真殿 克磨	県立東神戸高校